

大和における古墳時代後期紡錘車の問題—天理市布留遺跡の分析を中心に—

(1) (2) (3) (4)

小林青樹・池田保信・垣内翼・荒木清花

(1) 奈良大学文学部・(2) 元埋蔵文化財天理教調査団・(3) (公財)兵庫県まちづくり技術センター・(4) 新潟県観光文化スポーツ部

1. 問題の所在

布留遺跡からは、22 点の紡錘車が出土している。これらの紡錘車は、古墳時代の 5 世紀から 6 世紀までのものである。これまで布留遺跡における紡錘車については研究がなく、奈良県内全域に広げてみても古墳時代の紡錘車の特に集落遺跡に関する研究はほとんどない(小林他 2022)。ここでは、将来検討すべき課題が多いが、本遺跡は畿内中枢の一大拠点であり、本遺跡の紡錘車の実態把握は地方の古墳時代紡錘車研究に与える影響は大きいと考え、基礎的な情報を中心に報告することにする。

表 1 布留遺跡出土紡錘車一覧

No.	地区名	グリッド	遺構名	素材	形状	質量 (g)				残存率	備考	文献
						直径	厚さ	重量	軸径			
1	三島(里中)	FL20J3	溝掘	滑石製	Ⅱa	4.1	1.85	1.0	0.6	21.7	完好	(1)
2	三島(里中)	FR20a3	溝掘	滑石製	Ⅱa	4.3	2.4	1.2	0.6	30.3	完好	(1)
3	三島(里中)	FL20J2	溝掘	滑石製	Ⅱa	3.2	1.2	1.3	0.6	14.9	完好	(1)
4	三島(里中)	FL20a2	溝掘	滑石製	Ⅱa	4.1	2.85	0.9	0.65	24.6	完好	(1)
5	三島(里中)		溝掘	滑石製	Ⅱa	[4.1]	[2.0]	[0.9]	-	-	木製軸差	(1)
6	三島(里中)	FR20a3	溝掘	土製	Ⅱa	4.5	2.9	2.7	0.5	48.8	完好	(1)
7	三島(里中)	FL20J3	溝掘	木製	Ⅱa	6.3	2.6	2.0	0.9	13.4	ほぼ完	木製軸差 (1)
8	三島(三島神社・鏡池)	FK19T0	灰色砂質土層	滑石製	Ⅱa	3.9	1.6	1.9	0.7	44.7	ほぼ完	(2)
9	三島(三島神社・鏡池)	FR20T1	溝掘	滑石製	I	2.8	2.7	1.0	0.6	10.7	完好	(2)
10	豊井(打破り)	FE21J2	中世内溝	滑石製	Ⅱa	4.5	3.2	1.1	0.8	32.3	完好	(3)
11	布留(堂垣内)	FL19a5	溝掘	滑石製	Ⅱa	4.9	2.3	0.8	0.8	(14.1)	1/2	-
12	布留(西小路)	FR17J1	溝掘	緑泥石製	Ⅱa	4.7	1.2	2.0	0.7	90.9	ほぼ完	(4)
13	布留(西小路)	FR17a5	溝掘	緑泥石製	Ⅱa	4.0	2.1	1.5	0.6	36.3	完好	(4)
14	布留(西小路)	FL17a2	L.N.22	緑泥石製	Ⅱa	3.9	2.3	1.0	0.9	32.3	完好	(4)
15	杣之内(樋ノ下・ドウドウ)	FL10a4	溝掘	滑石製	Ⅱa	4.1	-	(1.0)	0.45	(25.4)	2/3	(5)
16	杣之内(樋ノ下・ドウドウ)		溝掘	滑石製	Ⅱ	(1.7)	-	0.5	0.6	(3.8)	1/2	(5)
17	杣之内(樋ノ下・ドウドウ)		柱穴	滑石製	Ia	(1.6)	-	0.4	0.6	(3.7)	1/3	(5)
18	杣之内(樋ノ下・ドウドウ)	FL16J2	溝掘	土製	Ⅱc	3.6	2.7	2.0	0.6	25.3	ほぼ完	(5)
19	杣之内(樋ノ下・ドウドウ)		溝掘	土製	Ⅱa	4.5	3.2	2.7	0.4	66.5	完好	(5)
20	杣之内(赤坂)	FL11a2	赤坂砂質層	滑石製	Ⅱa	4.3	1.6	1.6	0.7	36.3	完好	(6)
21	杣之内(赤坂)		溝掘	滑石製	Ⅱa	3.7	1.9	1.7	0.7	30	完好	-
22	杣之内(赤坂)		溝掘	土製	Ia	(4.2)	-	0.2	0.4	(3.6)	紡錘/4	数量軸差

※ [] は報告書掲載数、() は残存率を示す

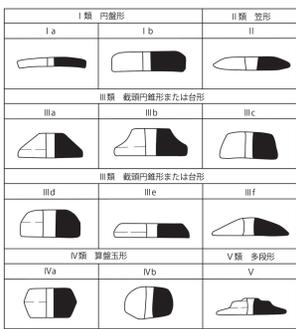


図 1 紡錘車形態分類

(2のつづき)

(3) 法量

図 4 は長径 × 厚さ、長径 × 重量の散布図である。両図で明らかであるのは、素材ごとの明確な差異である。両図ともに石製(滑石製品・緑泥石製品)と土製品、木製品のそれぞれの散布状態は分離可能でそれぞれにある程度まとまる傾向がある。そして細かく見れば、まず厚さの面で石製品は薄く、土製品は厚いことが指摘でき、そして重量の面でも土製品の方が石製品よりも総じて重い。

(4) 算盤玉形タイプ

断面形状において厚みのある算盤玉形の IVa は、日本列島における初期型は伽耶系、ないしは百済系のもが北部九州など西日本各地で 5 世紀代に見られるようになる。これらはいずれも韓半島系のもが起源であり、これが起点となりその派生形態、もしくは前期以来の形態が影響を受けて変容した可能性のある厚みのある IVb や III d、III c が生まれたと考える。

(5) 大和の古墳時代後期における紡錘車の特徴

石製紡錘車は概ね前期以来の石製品の形態を踏襲し中期に主力となった紡錘車であり、算盤玉形系に連なる土製品は韓半島系の系譜およびその影響を受けたか変容したものであろう。古墳時代の地方では、前期に土製品が主体で中期になると石製品主体となって土製品がほとんど用いられない地域もある。これに対して中期以降の奈良県では、土製品の方が主体となる遺跡もあり、そこでは半島系の強い関与を受けていた。これが大和の古墳時代紡錘車の特徴である。

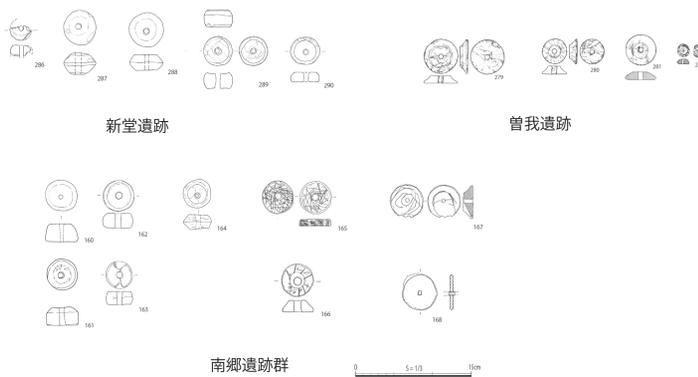


図 6 大和の主要遺跡出土紡錘車

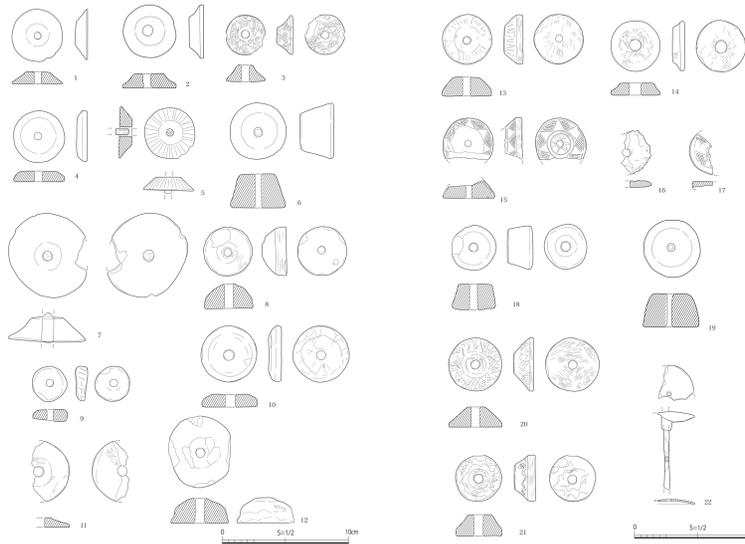


図 2 布留遺跡出土紡錘車 (1)

図 3 布留遺跡出土紡錘車 (2)

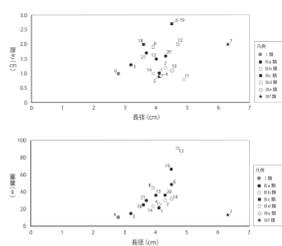


図 4 法量分布



図 5 絵画をもつ紡錘車

3. 紡錘車の布留遺跡内における分布

本遺跡内の地区ごとの紡錘車の出土分布傾向は、布留川を境として三島(里中)地区と杣之内(樋ノ下・ドウドウ)地区を中心に南北の様相が目立った。北側の三島(里中)地区を中心とするエリアでは、まず三島(里中)地区西で石製品 3 点と木製品 1 点、三島(里中)地区東で石製品 1 点と土製品 1 点、三島(三島神社・鏡池)地区で石製品 2 点、豊井(打破り)地区で石製品 1 点、布留(堂垣内)地区で石製品 1 点がそれぞれ出土している。これらのうち、三島(里中)地区東は鍛冶・馬具・馬匹に関わるエリアである。一方南側では、杣之内(樋ノ下・ドウドウ)地区で石製品 3 点、布留(西小路)地区で石製品 3 点、杣之内(赤坂)地区で石製品 1 点が出土している。杣之内(樋ノ下・ドウドウ)地区は、鍛冶や玉作りといった生産域に相当する。

このような紡錘車が出土した地区は生産域に推定されており(中久保 2020)、鉄器や玉類の生産が行われていたと考えられており、生産域と重なって紡錘車がやや多く出土するということは、紡績に関わる生産が同所で行われていたことを示している。こうした紡錘車による紡績生産は、おそらく布の生産の他、各種工具類や武器武具類などに用いる糸などに多用されたと考える。以上のような様相からみて、古墳時代後期の布留遺跡では紡錘車は布生産や紡いだ糸を武器・武具などにも用い、専門的に行われ、大和なかでも中心的な生産拠点であったと考える。

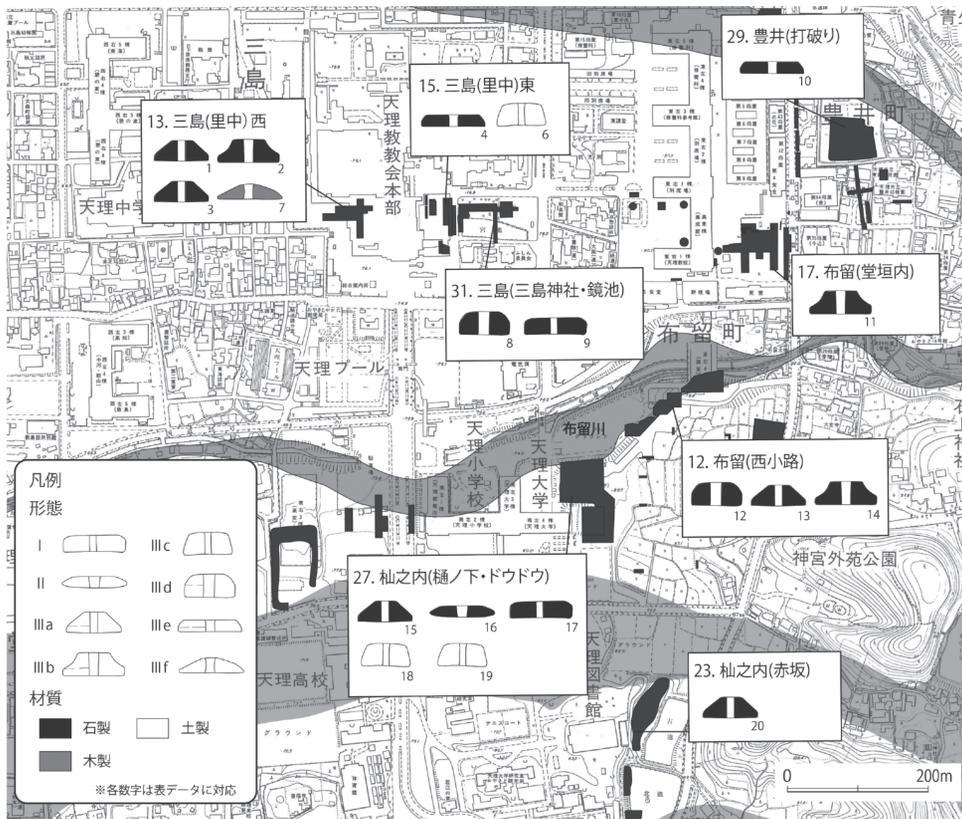


図 7 布留遺跡出土紡錘車の分布

引用参考文献(発掘調査報告書は割愛)

池田保信 2020 『大和布留遺跡における歴史的景観の復元』『研究紀要』第 24 集(公財)由良大和古代文化研究協会
 小林青樹・垣内翼・荒木清花(編)2022 『弥生布の出現と展開—紡錘車と布目産土器—』奈良大学
 中久保保夫 2020 『布留遺跡の古墳時代集落』『研究紀要』第 24 集(公財)由良大和古代文化研究協会

発掘調査報告書

1) 山内紀嗣(編)1995 『布留遺跡三島(里中)地区発掘調査報告書』埋蔵文化財天理教調査団
 2) 日野宏(編)2013 『布留遺跡三島(三島神社・鏡池)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 30 埋蔵文化財天理教調査団
 3) 太田三喜(編)2013 『布留遺跡豊井(打破り)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 29 埋蔵文化財天理教調査団
 4) 高野政昭(編)1996 『布留遺跡布留(西小路)地区古墳時代の遺構と遺物』考古学調査研究中間報告 19 埋蔵文化財天理教調査団
 5) 山内紀嗣(編)2012 『布留遺跡杣之内(樋ノ下・ドウドウ)地区発掘調査報告書遺物編』考古学調査研究中間報告 26 埋蔵文化財天理教調査団
 6) 高野政昭(編)2010 『布留遺跡杣之内(赤坂・北池)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 22 埋蔵文化財天理教調査団
 7) 池田保信(編)2023 『塚穴山古墳第 2 次・杣之内古墳群(須川)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 33 埋蔵文化財天理教調査団